

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
210008	XXX1210008	2	後期	国際学部国際文化学科	基礎	選択	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報文化学科	共通	選択	2年
国際経済学	安藤 潤			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	共通	選択	2年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	共通	選択	2年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	共通	選択	2年
授業目的							
この科目の目的は、国際経済学の基礎理論と、基軸通貨ドルを中心とした戦後の国際経済史を学び、これらをベースとして世界経済・各国経済の現状、その問題点と背景について理解を深めること、そして情報文化学部と国際学部のディプロマ・ポリシーの一部を満たすことである。							
各回毎の授業内容							
第1回 【授】イントロダクション 【前・後】【予・復習に4時間】図書館で本講義科目の指定図書を探し、実際にどのようなことを学ぶのかイメージをもって出席することが望ましい。				第9回 【授】外国為替市場②：外国為替相場決定理論 【前・後】【予・復習に4時間】[1]第14章、[2]第10章、[4]第8章52,53のいずれかを参照。授業後は[3]2Ⅲなどで補足しておくことが望ましい。			
第2回 【授】第2次大戦後の国際貿易・金融システム①：ブレトンウッズ体制の誕生 【前・後】【予・復習に4時間】現代アメリカ論」を履修済みの学生は戦後の国際金融の歴史を復習しておくことが望ましい。そのほか、[1]第1章など。授業後は[3]1Ⅱなどで補足しておくことが望ましい。				第10回 【授】地域経済統合①：地域経済統合のメリット、WTOと地域経済統合、地域経済統合発展の5段階 【前・後】【予・復習に4時間】[1]第10章10.1,10.2。授業後は地域経済統合とはどのようなことかを具体的に説明できるようにしておくこと。			
第3回 【授】第2次大戦後の国際貿易・金融システム②：ブレトンウッズ体制の前壊とスミソニアン協定 【前・後】【予・復習に4時間】第2回と同じ。				第11回 【授】地域経済統合②：FTAとEPA、FTAの経済効果、TPP 【前・後】【予・復習に4時間】[1]第11章10.3,10.4（グラフを用いた理論的解説とはばしてよい）。授業後は日本政府が現在どことFTA,EPAを締結しているのか、あるいは締結しようとしているのか経済産業省などのウェブサイトですべて調べておくこと。また、TPPについては新聞記事検索で現状を把握しておくこと。			
第4回 【授】第2次大戦後の国際貿易・金融システム③：1980年代の国際政策協調とその終焉 【前・後】【予・復習に4時間】事前学習は第2回と同じ。授業後は[3]1Ⅱ3などで補足しておくことが望ましい。				第12回 【授】地域経済統合③：世界の地域経済統合、EUの歴史 【前・後】【予・復習に4時間】EUの歴史については駐日欧州連合代表部のウェブサイトですべておくこと。EC、EU 拡大の歴史を把握しておくこと。将来的には「現代ヨーロッパ論」を履修するのが望ましい。			
第5回 【授】現代の国際貿易①：GATT/WTO 【前・後】【予・復習に4時間】事前学習は第2回と同じ。授業後は[3]7Ⅰ、Ⅱ、[4]第11章71,72,73などで補足しておくことが望ましい。				第13回 【授】トピック研究①：アジア通貨危機 【前・後】【予・復習に4時間】[2]第16章、[4]第11章80,81。少なくとも新聞記事検索で「(アジア)通貨危機」を検索し、いくつかの記事に目を通しておくこと。授業後は通貨危機のメカニズムを外国為替市場での取引や外貨準備増減などから説明できるようにしておくこと。			
第6回 【授】現代の国際貿易②：日本の貿易構造、貿易理論 【前・後】【予・復習に4時間】[1]1.5,1.6、4.1,4.2、[2]第1章、第2章、第3章3-1、第4章4-1、[4]第2章7,8,16。授業後は[3]5Ⅱ、Ⅲなどで補足しておくことが望ましい。				第14回 【授】トピック研究②：「ユーロ危機」 【前・後】【予・復習に4時間】「ユーロ危機」が発生した2010年9月以降の新聞記事検索をし、いくつかの記事に目を通しておくこと。欧州通貨統合についても調べておくことが望ましい。			
第7回 【授】国際収支表①：国際収支表の仕組み、経常収支決定理論 【前・後】【予・復習に4時間】[1]第11章、[2]第8章、第11章、[4]第7章、第8章56,57のいずれかを参照。授業後は[3]3Ⅱなどで補足しておくことが望ましい。また、日本銀行のウェブサイトですべて日本の国際収支統計を閲覧することを薦める。				第15回 【授】まとめ 【前・後】【予・復習に4時間】配布済みプリントでこれまでの授業内容を振り返っておくこと。			
第8回 【授】外国為替市場①：外国為替市場の仕組み、様々な外国為替相場制度 【前・後】[1]第12章12.1,12.2,12.3、[2]第9章9-1、9-2、[4]第8章47,48のいずれかを参照。授業後は[3]2Ⅰ、Ⅱなどで補足しておくことが望ましい。				第16回 【授】定期試験 【前・後】【予・復習に4時間】ノートと配布資料を中心によく勉強して臨むこと。			
成績評価方法							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							80
小テスト・授業内レポート							20
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表表(口頭・実技)							
演習							
その他							
定期試験を80%、任意でとるコメントカードの提出回数・内容を20%として成績判定を行う。成績は本学の基準に従う。							
教科書参考書							
教科書は指定しない。 参考書は指定図書すべて。ただし、1年生も履修することを考えて以下の図書を主要参考書とするのでコピーするなどして予習・復習に活用してほしい。もっとも国際経済学のテキストは多数出版されているので、もし下記図書がなくても他の図書の該当箇所を活用すること。 [1]大川昌幸『コア・テキスト 国際経済学』新世社 [2]澤田康幸『基礎コース 国際経済学』新世社 [3]伊藤元重『ゼミナール国際経済学』日本経済新聞社 [4]多和田真・近藤健児編著『国際経済学の基礎「100項目」』創成社							
受講に当たっての留意事項							
「現代アメリカ論」「経済学(マクロ)」を履修していることが望ましい(あくまで「望ましい」のであって条件ではない)。私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退出はしないこと。授業中は歩き回らないこと。携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ってカバンなどにしまっておくこと(机の上には出さないこと)。飲食禁止。コピーを配布するが、欠席をした者は自己の責任でそろえること。板書したことだけでなく、重要と思われる点は各自ノートに書いておくこと。数式は極力避けるが、グラフは講義内容の理解を深めるために複雑でないものを用いる。全出席・無遅刻が大原則。							
学習到達目標							
この授業内容をベースとして、円高・円安、ドル不安、欧州経済危機といった新聞の国際経済欄や国際経済に関するニュースに関心を持ち、それらを理解し、また自らの考えを述べるができるようになること。							
JABEE							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習